

翠黛山・金比羅山・瓢箪崩山

1. 行程

JR 高槻(7:31)=京都=国際会館(8:30)=バス停大原「230」(9:00 出発)→
3.0K 翠黛山 577m(10:33)→0.7K 金比羅山 573m(11:20—45)→1.0K
江文峠「300」(12:50)→2.5K 寒谷峠「450」14:50→0.3K 瓢箪崩山
532m14:35→3.0K 花園町バス停「90」(15:50)=国際会館 16:05
「 」: 標高(m)

歩行距離 10.5km 標高差 347m + α
所要時間 6:50(歩行時間 5:00)
天候: 曇り時々小雨
参加者 7名:

2. 感想

朝方まで降雨があり、やっと雨が止んだ大原のバス停を出発。寂光院の竹垣からのぞく庭の緑がまぶしい。準備体操をし、川を渡り苔むした階段を上って翠黛山へと向かう。前半はかなり急な登りで、一時間で翠黛山に着く。立札によるとこの山は平家物語の大原御幸の段に出てくるそうだ。建礼門院がこの辺りを歩かれたかもしれないと思うと、見通しの悪い山上にも優雅な香りが漂ってきた。20分ぐらいで金比羅山のロッククライミングゲレンデの標識があり、ここは京都の岩登りのメッカと教わる。山頂と思われた一番高いところに朱塗りの鳥居がある三壺社(三宝大神)があり、そこから鞍部に行く途中に大国主命の石碑やハングル文字が書かれた背の高い碑がある。アモノミナカオヌシオオカミと読めるそうだ。10分ぐらい下ったところに小さな社と三角点があり、これが金比羅山の山頂だ。ここで少し早い昼食。このとき5, 6人の反対コースをランニングでめぐっているグループに会う。この日出会ったのはこのグループのみ。

少し下ったところに琴平新宮社という社があった。山の中にしてはかなりの規模で 10 年前はピカピカに輝いていたそうだが、今でもよく手入れされており、掃除も行き届いて、トイレもあるそう。そこから一寸江文神社の方へ行きかけたが戻って道を確認する。標識があったのに倒れていたためか、見過ごしたのだ。全員が気づかなかったことを大いに反省。まっすぐ南に下るが、木の階段が水にぬれてとても滑りやすい。江文（えぶみ）峠に出る。石の鳥居がありここが琴平新宮社の登り口にあたる。バス道をわたり、ここから一時間半の瓢箪崩れ山を目指す。この辺から少し雨が降り出すが雨具を出すほどではない。アップダウンが 3 度ほどあって時々比叡山や大原の集落が見えたりしながら、寒谷峠に出る。あと 300m の急登で瓢箪崩れ山の頂上だ。ここは社などもなく、標識も目立たず地味な感じ。山頂は東側のみが開けていて比叡山を背景に八瀬の方の集落がきれいに見える。下りは南方向へ一定の緩やかな勾配で道幅も広くとても歩きやすい。小雨が降り続く中どんどん歩いてトトギ池を左に確認し、やがてアジサイの花が咲く住宅街に出る。自然な形でバス停にぶつかる。花園町バス停で国際会館に行くバスも 10 分ごとにあり、ほとんど待たずにバスに乗れた。雨の中コンクリート道を長く歩かずに済んで助かった。

今日は天気予報では曇りだが雨の可能性もあり結局は午後には小雨になったが、雨具を着たのは 2 名であとは濡れながら歩いて気持ちよかった。この時期晴れると暑いので小雨なら降っても涼しくて気持ちよかった。帰りは阪急高槻で反省会。

瓢箪崩山という珍しい名前を知って以来一度は登ってみたいと思っていた。「瓢箪が崩れたような山容」は見えなかったが、結構な登りで手ごたえがあった。雪があっても八瀬方面からは登りやすそう。

Monte Azur 記

江文峠



瓢箪崩山山頂

